

○法導入から10年間の実績を踏まえ、対象事業の特性に応じて、監理委員会審議の各プロセスの課題と対応方策を整理

1. 意見募集等

現状＝民間事業者からの提案により、多くの事業において市場化テストを実施
課題＝年々提案数が減少する傾向

監理委員会事務局から民間事業者に対して直接ヒアリングを実施するなど、対話を重ねる取組を検討。

2. 事業選定

現状＝行政事業レビューシート等を活用し、既に外部委託されている契約状況を基にした網羅的な事業選定が中心
課題＝法の趣旨は、「国の行政機関等が実施する公共サービスに関し、民間が担うことができるものは民間にゆだねる観点から、これを見直し、民間事業者の創意と工夫が反映されることが期待される一体の業務を選定」することにあるところ、契約状況の側面以外に事業の目指すべき目的・成果を踏まえた重点的な議論、「官から民への」趣旨を踏まえた事業選定を徹底すべき

○事業選定の方策に加え、意見募集で得られたテーマをもとに、各種行政に関する評価機能の検討内容も踏まえ検討（政策評価・独立行政法人評価との連携）
○「官から民への」趣旨を踏まえた事業選定も引き続き重視（国会、報道等の議論のフォローを徹底）

3. 実施要項審議

○ 監理委員会における審議
現状＝競争性の確保や情報開示の徹底の観点から議論
課題＝民間の創意工夫や公共サービスの質の維持向上について議論を深めるべき
○ 民間事業者の創意工夫の活用
現状＝多くの事業において総合評価落札方式を採用し、創意工夫を導入
課題＝仕様書上創意工夫の余地を認める、アウトカムの明示、代替提案の許容等の指摘
○ 委託業務内容の検討
現状＝事業の包括化や複数年化を実施し、参入意欲を高めた事業が多く存する一方、係る方策がかえって競争性を阻害した例も散見
課題＝個々の事業や地域の特長等を踏まえ、事業期間や委託内容を検討すべき等

○事業目的・アウトカム（事業の成果）を念頭に置いた議論
事業目的・アウトカムを念頭に置いた議論の進め方について整理。また、選定に至った経緯を整理し、実施要項上の改善策について議論を深化。（審議資料の再構成（議論すべき論点の設定））
○ 民間事業者の創意工夫を発揮しうる環境
民間事業者の創意工夫を引き出すための仕組み（性能発注や代替提案、民間企業へのインセンティブ）について整理。
○ 実施要項案検討にあたっての各種論点・これまでの議論の整理
（標準例やマニュアル等の作成・改正、各事業の実施状況の整理）

4. 評価

現状＝対象事業が法の目的を達成したか確認するとともに、目的を達成できなかった事業については次期事業に向け課題を指摘したところ。
課題＝実施要項審議の際議論した点のフォロー／市場化テスト前後の比較のみならず、事業の内容を事業目的・アウトカムの観点からも検証し、次期につながる議論をすべき等

○事業目的・アウトカム（事業の成果）を念頭に置いた議論
○実施要項審議に議論された論点のフォロー（審議資料の再構成（議論すべき論点の設定））
○新プロセス・終了プロセスの運用の見直し（一定期間経過後の総括的検討）

○一般的な公共の入札において不落・不調が生じている一方、市場化テスト事業においても同様の案件が散見＝官民間でのコストやリスクの認識の相違や昨今のコスト増等が考えられ、監理委員会ではその原因分析等審議を深め、発注者では入札の実施にあたっては市況調査を徹底すべきとの指摘

○AI・IoTの進展によるサービスの内容や官民分担の変化、またCSVなどといった公共サービスの質について新しい動向が見られ、民間事業者の創意工夫として事業に活かさないか検討